

# U・優プランII

～第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画～

## 第1期推進計画 (平成24年度～平成28年度)

### 事業評価報告書



平成29年6月

浜松市ユニバーサルデザイン審議会

## 目 次

1. U・優プランⅡ第1期推進計画の評価にあたって	2
2. 第1期推進計画の総括	
(1) 総括	2
(2) 基本目標別の評価と課題	2
3. 第1期推進計画の基本目標ごとの評価	4
<b>基本目標Ⅰ 思い合い、認め合う“こころ”</b>	4
(1) 基本目標の指標の分析・評価	4
(2) 基本施策別評価	5
<b>基本目標Ⅱ みんなで支え合う“しくみ”</b>	8
(1) 基本目標の指標の分析・評価	8
(2) 基本施策別評価	9
<b>基本目標Ⅲ 誰もが暮らしやすい“まち”</b>	13
(1) 基本目標の指標の分析・評価	13
(2) 基本施策別評価	15

## 1. U・優プランⅡ第1期推進計画の評価にあたって

U・優プランⅡ第2期推進計画（H29～H33）を策定するにあたり、第1期推進計画（H24～H28）の目標達成状況や各課の取組状況について、浜松市ユニバーサルデザイン審議会でも分析し、課題及び解決策等を協議した。

## 2. 第1期推進計画の総括

### (1) 総括

第1期推進計画では、ユニバーサルデザイン（UD）の「普及・啓発から定着・実践へ」と「みんなで支え合う安心・安全な暮らし」を課題としている。

「普及・啓発から定着・実践へ」に関しては、市民意識調査のUDの認知度・理解度は5年前に比べて向上（認知度 4.7%増、理解度 2.2%増）しており、市民の暮らしの中にUDが浸透してきたものと評価できる。しかし、「思いやりの行動をする人が増えてきたか」という設問に関しては 5.6%減となっていることから、まだまだ定着・実践に結び付いていないとは言えない。

課題としては、UDの普及活動を行う人材を育成するなどして、定着・実践に結び付けていくことが課題である。

また、「みんなで支え合う安心・安全な暮らし」に関しては、市民が安心して暮らしていくための環境整備と地域で支え合う仕組みづくりを進め、相互に補完することを目指すとしている。建築物などの環境整備の部分では、市民意識調査では「利用しやすい」と感じる人が増加（公共施設 1.4%増、民間施設 4.7%増）していることから、施設のUD化が進んでいるものと評価できる。地域で支え合う仕組みづくりに関しては、「誰もが暮らしやすい地域だと感じる」人の割合が 1.3%増と、わずかではあるが増加しており、概ね評価できる。

一方で、「防災・防犯の面で安全・安心に暮らせる地域と感じる人の割合」は、12.7%減と大幅に減少している。これは、熊本大地震や近年の記録的な豪雨による浸水や避難勧告、橋の崩落等で防災に対する意識が高まったことが影響したものと考えられるが、市民が安心・安全に暮らせるUDのまちづくりを進めるためには、万全な防災対策が望まれる。

引き続き、環境整備・仕組みづくりに、今後も継続して取り組んでいくことが必要である。

## (2) 基本目標別の評価と課題

### 基本目標Ⅰ 思い合い、認め合う“こころ”

市民一人ひとりに「心のUD（思いやりの心）」が広がり、お互いの個性を理解し、認め合い、共生することができる社会づくりのためには、明日の浜松市を担う子供達への教育に力を入れていくことが重要である。第1期推進計画期間では、UD出前講座等の学習支援事業の実績が約2倍に伸びており、市内の小中学校においてUD学習が定着してきたことは評価できる。

一方、課題としては、UD普及活動を行う市民の支援や育成が進んでいないことや、UDサポーターの登録後の活用機会をどう増やしていくか等があげられる。

### 基本目標Ⅱ みんなで支え合う“しくみ”

互いに支え合い、誰もが暮らしやすい社会づくりのためには、高齢者や障がい者、子育て世代、外国人など、サポートが必要な人々を地域で支えていく仕組みづくりを進めていくことが重要である。今後は、より個々へのきめ細かい対応が求められる。

「市民協働によるUD推進」については、市民団体等との連携は一定の評価ができるが、まだまだ定着したとは言えない。時間が必要だが、今後は事業者等との連携も積極的に進めるべきである。

情報のUD化は、今後の重要課題である。民間との連携により、誰もがわかりやすい情報提供などに努めるべきである。

### 基本目標Ⅲ 誰もが暮らしやすい“まち”

誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるためには、道路や施設、交通などの生活基盤についてUD化を進めていくことが重要である。公共施設のUD化に関しては、年次計画に沿って整備が進んでいる。今後は、市域全体でまちづくりのUD化を進めていくことが必要である。また、今後益々、高齢者や障がい者のみならず、観光客や外国人に配慮した環境整備も課題である。

防災対策については、東日本大震災後、熊本大地震によって、再び市民の災害に対する関心も高まっており、防潮堤等のハード整備を進めていくとともに、有事に備えて被災後の避難所生活における女性や障がい者・乳幼児など、様々な人への配慮を検討していく必要がある。

### 3. 第1期推進計画の基本目標ごとの評価

基本目標及び基本施策別に設定した目標数値の進捗状況や各課の取組状況等をもとに評価を行い、課題を抽出した。

#### 基本目標Ⅰ 思い合い、認め合う“こころ”

##### (1) 基本目標の指標の分析・評価

###### ◆基本目標の評価指標

指 標	単 位	H23 市民意識 調査	H28 市民意識 調査	増減	目標
UDの理解度(詳しく知っている、知っている)	%	39.3	41.5	2.2	50.0
思いやりのある行動をする人が増えていると感じる人の割合	%	45.5	39.9	▲ 5.6	75.0
日常生活の中に「UD」の考え方が広まっていると感じる人の割合	%	44.1	41.9	▲ 2.2	75.0

##### ■ 分析・評価

「思い合い、認め合う“こころ”」では、UDを市民に広く浸透させるための普及・啓発について取り組み、その効果を検証した。

「ユニバーサルデザイン(UD)」という言葉を知っている市民の割合(理解度)は、平成23年度から平成28年度の5年間で2.2%の増加となっている。これは、日頃の啓発事業をはじめ、小中学校におけるUD学習が浸透することで、学校からの宿題や自由研究等により、その保護者に対してもUD啓発が進み、良い影響を与えたことが要因と考えられる。しかし、「思いやりのある行動をする人が増えていると感じる人の割合」、「日常生活の中にUDの考え方が広まっていると感じる人の割合」についてはマイナスとなっている。

この結果から、UDの認知度向上や考え方が広まることによって、市民のUDに対する要求レベルが上がり、市の取組みや現状をより厳しい目線で判断されるようになってきたと考える。

## (2) 基本施策別評価

### 基本方針（1）お互いの個性を理解し共生する心

#### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策									
指標									
(1) お互いの個性を理解し共生する心									
① 学校教育における心のUDの推進									
UD出前講座受講者数 (学校向け)	人/年	計画	3,000	3,100	3,200	3,300	3,400	学校実施分のみ	
		実績	3,196	3,629	4,895	5,139	4,215		
UD学習対応・施設見学受講者数	人/年	計画	370	390	410	430	450		
		実績	760	923	1,210	1,596	1,544		
UDサポーター派遣プログラム受講者数	人/年	計画	1,350	1,400	1,450	1,500	1,550		
		実績	303	504	527	995	961		
② 社会・地域・家庭における心のUDの推進									
福祉体験講座受講者数	人/年	計画	1,040	1,120	1,200	1,280	1,360		
		実績	824	1,327	1,023	924	690		

#### ◆評価コメント

##### ① 学校教育における心のUDの推進

- UD出前講座受講者数とUD学習対応・施設見学受講者数は、目標を大きく上回り、市内小中学校の3割以上が受講するなど、着実にUD学習が浸透している。
- 今後は、出前講座等で学習したことを実践として生かせるような事業を展開することが必要である。
- UDサポーター派遣プログラムについては、目標値には届かないものの、受講者人数は毎年着実に伸びている。講座内容やメニューの充実を図り、人材育成や目標を達成できるよう進めることが必要である。

##### ② 社会・地域・家庭における心のUDの推進

- 福祉体験講座については、受講者数が減少傾向にあるため、内容・PR等の工夫が必要である。

## 基本方針（2）地域の中で育むUDの心

### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策	指標								
(2)地域の中で育むUDの心									
①UDを推進する人材の育成									
UDサポーター登録人数	人	計画	100	350	400	450	500	※計画数値(上方修正)	
		実績	274	342	412	440	457		
UD出前講座受講者数 (一般向け)	人/年	計画	400	400	400	400	400	一般実施分のみ	
		実績	241	123	100	0	91		
②UDを推進する団体の育成									
UDセミナー参加者数	人/年	計画	30	30	30	30	30	※H27～各種セミナー統合	
		実績	22	24	29	33	209		

### ◆評価コメント

#### ①UDを推進する人材の育成

- UDサポーター登録人数は、UDに取り組む事業者を中心に登録者数が年々増加しているが、目標数には届いていない。市民協働による啓発を進めるうえでは、市民が自発的にUDに取り組むことは重要であるため、PRの見直しを含め検討が必要である。
- UDサポーター事業は、登録だけに留まらず、活躍の機会をどのように増やしていくかが今後の課題である。
- 一般向けのUD出前講座受講者数については、地区社協や民生委員を対象に実施してきたが、ニーズが年々減少したため、対象等を含めて事業の見直しが必要である。  
(H28年度の91人は大学生)

#### ②UDを推進する団体の育成

- UDセミナーは、平成26年度まではUD市民リーダー等のUDに関心のある市民や団体を対象としていたが、平成27年度から一層の普及啓発を進めるため、事業者も対象に加え、幅広く啓発するように改善されたことは評価できる。

## 基本方針（3）もてなしの心で広がるUDサービス

### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策									
指標									
(3)もてなしの心で広がるUDサービス									
①観光地・商店街のUDの推進									
民間のサービスにUDの考え方が広まっていると感じる人の割合	%	計画	—	55.0	—	75.0	75.0	UD市民意識調査 H23調査47.9%	
		実績	—	***	—	***	47.8		

#### ①観光地・商店街のUDの推進

- ▶ 民間のサービスにUDの考え方が広まっていると感じる人の割合は、47.8%となり、平成23年度調査と比べて、ほぼ横ばいの状態である。障がい者や高齢者等の社会参画や外国人観光客の増加に伴い、事業者側のUD的な配慮がより求められる状況にあるため、民間サービスや市民による“おもてなしの心づくり”は、今後さらに進めていく必要がある。



## 基本目標Ⅱ みんなで支え合う“しくみ”

### (1) 基本目標の指標の分析・評価

#### ◆基本目標の評価指標

指 標	単 位	H23 市民意識 調査	H28 市民意識 調査	増減	目 標
誰もが暮らしやすい地域だと感じる人の割合	%	39.8	41.1	1.3	50.0
高齢者、障がい者などを支援する活動等に参加したことがある人の割合	%	27.4	25.9	▲ 1.5	50.0
UDの認知度(詳しく知っている、知っている、聞いたことがある)	%	70.0	74.7	4.7	100

#### ■ 分析・評価

「みんなで支え合う“しくみ”」では、誰もが住み慣れた地域で生きがいを感じて生活できるよう、地域で支え合う仕組みづくり、みんなで参加する仕組みづくり、共有できる情報などの仕組みづくりや環境整備に取り組み、その施策等の効果を検証した。

「誰もが暮らしやすい地域だと感じる人」の割合は、高齢者の働く機会や生きがいづくり・障がい者の雇用に対する地道な取り組みなどがあり、1.3%の微増となっている。

「高齢者、障がい者などを支援する活動等に参加したことがある人」の割合は、わずかに減少している。

「UDの認知度」は、UDに関する多方面かつ継続的な啓発等の取り組みがあり、4.7%の増加となっている。

全体としては、一定の成果を上げていると考えられるが、市民のUDに対する自発的な行動を促すことが課題である。

## (2) 基本施策別評価

### 基本方針（1）地域で支え合う社会の仕組み

#### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策	指標								
(1)地域で支え合う社会の仕組み									
①高齢者が生き生きと暮らせる環境づくり									
シルバー人材センター会員登録数	人	計画	4,445	4,503	4,377	4,421	4,454	※計画数値(下方修正)	
		実績	4,242	4,339	4,270	4,432	4,409		
生きがいづくり教室の定員に対する応募率	%	計画	83.0	83.5	84.0	84.5	85.0	※計画数値(下方修正)	
		実績	82.8	89.2	85.8	91.1	87.8		
②障がい者等の自立支援の推進									
企業への障害者雇用アドバイス件数	件/年	計画	20	100	100	100	100		
		実績	42	88	116	124	143		
障害者法定雇用率(2.0%)を達成している企業の割合	%	計画	43.0	44.0	46.0	48.0	50.0		
		実績	46.2	43.2	45.1	45.6	48.0		
③外国人市民との共生の推進									
外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくりに対する満足度	%	計画	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	市民アンケート	
		実績	11.2	10.7	10.5	10.1	13.4		

#### ◆評価コメント

##### ①高齢者が生き生きと暮らせる環境づくり

- ▶ 定年退職後に、人のためになりたい、社会貢献をしたいと思っている方は多いと思う。その人たちの役割や仕事の分担をコーディネートする人を育成し、活動の支援をすることが求められている。
- ▶ 定年退職後の世代に活躍してもらう仕組みづくりは、とても良い取組みである。
- ▶ 高齢者の選択肢の一つとして、働く機会があることは、収入を得る意味でも生きがいを得る意味でも良いことなので、継続して進めるべきである。
- ▶ 生きがいづくり教室の応募率は、年々高まる傾向にある。これは趣味や健康づくり、ふれあいなどを求めている人が増加している表れである。

## ②障がい者等の自立支援の推進

- 障がい者を雇用する側への理解を深めるため、企業への啓発（アドバイス）をさらに進める必要がある。
- 障がい者の法定雇用率が概ね横ばいであるが、着実な向上を目指す必要がある。

## ③外国人市民との共生の推進

- 外国人も多国にわたるので対応が大変だと思うが、多文化共生は市の重要施策であるので、様々な事業を期待する。
- 外国人市民との共生社会づくりに対する満足度は、平成28年度は改善されて目標値に近い数値となった。多くの外国人居住者がいる本市では、情報提供や交流イベント、日本語教室の開催など、交流促進を図る施策が多岐に渡り実施されてきた成果と思われるが、満足度の数値自体はまだ低い。現状の課題を抽出し、さらなる改善に向けた取組みに積極的なチャレンジが必要である。

## 基本方針（2）みんなでつくり、みんなで参加する仕組み

### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策	指標								
(2) みんなでつくり、みんなで参加する仕組み									
① 市政等への市民参画の推進									
UDのまちづくりに向けた活動に参加したいと思う人の割合	%	計画	—	60.0	—	75.0	75.0	UD市民意識調査 H23調査52.7%	
		実績	—	***	—	***	50.4		
② 市民協働によるUDの推進									
市民団体等と協働で実施したUD関連事業数	件/年	計画	5	6	8	10	10		
		実績	7	10	12	13	9		

### ◆評価コメント

#### ① 市政等への市民参画の推進

- 託児等に対する必要性の理解度がまだ低いため、様々な人たちの参画につながっていない。
- 市民参画のための仕組みや事業はあるが、それを知らない人や享受できない人がいる。事業等のPRや定着化が進めば、様々な人が参画できるようになる。
- 本市は市域も広く、各地域で年間様々なイベントが開催されている。イベント等の主催者にイベントの手引きを配付するなど、UDを理解し、多様な人への配慮がされるようなしくみづくりを行うことが必要である。

#### ② 市民協働によるUDの推進

- 市民団体と協働で行うUDの推進が、UDの定着実践に結びつくと考えられるので、さらに多くの団体との協働事業を展開することが必要である。

## 基本方針（3）みんなで共有できる情報

### ◆基本施策別評価指標

基本方針	基本施策	単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考	
				指標						
(3)みんなで共有できる情報										
①UDの定着化に向けた情報の収集・発信										
UDメールマガジン登録者数	人	計画	100	150	200	250	300			
		実績	77	102	116	122	141			
②情報のUD化の推進										
市が提供する情報がUDに配慮していると感じる人の割合	%	計画	—	60.0	—	75.0	75.0	UD市民意識調査 H23調査:46.4%		
		実績	—	***	—	***	41.6			

### ◆評価コメント

#### ①UDの定着化に向けた情報の収集・発信

- UDメールマガジンは、計画どおり毎月発信されているが、配信者数は登録者数ほど増えておらず、情報発信方法の再考が必要である。受け取った人の反応がわかるSNSを導入し、画像等で見せる方が効果的だと考えられる。また、見たい、知りたいと思わせるような情報を提供していくことが重要である。
- 「浜松まちなかトイレマップ」は全市域版にすべきである。各区役所と連携し、公設トイレのみならず、民間大型店舗等も含めたトイレマップを希望する。
- 「まちなかトイレマップ」「イベントづくりの手引き」は、大変役に立つ内容になっているので、広く利用してもらえるよう働きかけが必要である。

#### ②情報のUD化の推進

- インバウンドに対応し、サイン等の多言語化や無料Wi-Fiスポットの拡大など、情報を入手する際の利便性を高めることが急がれる。
- 情報を必要としている人のところに、行き届くようにしていく必要がある。
- 情報のUD化に関しては、改善や工夫などの取組みを行ってきたことは評価できる。しかしながら、読みやすさや理解しやすさ等、受け取る側の要求レベルも向上しているので、更なる研究が必要である。

## 基本目標Ⅲ 誰もが暮らしやすい“まち”

### (1) 基本目標の指標の分析・評価

#### ◆基本目標の評価指標

指 標	単 位	H23 市民意識 調査	H28 市民意識 調査	増減	目 標
歩行者優先の道が整備されている地域と 感じる人の割合	%	30.4	29.9	▲ 0.5	50.0
民間施設について利用しやすいと感じる 人の割合	%	48.8	53.5	4.7	75.0
防災・防犯の面で安全・安心に暮らせる地 域と感じる人の割合	%	58.7	46.0	▲ 12.7	75.0

#### ■ 分析・評価

「誰もが暮らしやすい“まち”」では、誰もが安全に外出ができるような歩行空間や誰もが利用しやすい施設、また防災・防犯対策など安全な暮らしのための環境整備について取り組み、その効果を検証した。

「歩行者優先の道が整備されていると感じる人」の割合は、市役所前交差点が平面横断化されるなどの事業が実施されたが、身近な生活圏の道路に目新しい道路整備がなければなかなか実感が湧かないためか、前回とあまり変わらない結果となった。

「民間施設について利用しやすいと感じる人」の割合は、平成23年度から4.7%増の53.5%となり過半数を超える結果となった。これは、大型ショッピングセンターや新東名サービスエリアをはじめとした民間のUD化された施設が増えてきたことにより、「施設のUD」を感じるが多くなってきたことが要因だと判断される。

「防災・防犯の面で安全・安心に暮らせる地域と感じる人」の割合は、平成23年度から12.7%減の46.0%となり、半数以下となった。調査時期が熊本大地震直後だったことや、近年の記録的な豪雨による浸水・避難勧告、橋の崩落などの災害もあったことから、防災に対する意識が高まったためと考えられる。また、市内で凶悪事件が多発し、平穏な生活を脅かされたことも防犯に対する意識が高まったことが影響したものと推測される。

市民意識調査の結果では、市民は民間施設等の利便性を少しずつ感じてきてはいるが、

防災・防犯に関しては半数の人が不十分、あるいは不安を感じているということがわかった。ハード整備は目に見え、市民にもわかりやすいことから、施設等のUD化や防災施設を整備していくことで、市民の安心感は向上すると思われる。

道路・施設などのハード整備は先行投資が必要であるが、市民に理解を得られやすい施策であるため、今後も積極的に継続しながらも、市民の生命・財産を守るため、防災・防犯の観点から安全・安心に暮らせるまちづくりについて、市民と共にどう進めていくかが鍵である。

## (2) 基本施策別評価

### 基本方針（1）快適で安全な歩行空間

#### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策									
指標									
(1) 快適で安全な歩行空間									
① 歩行者優先の道づくり									
歩行者優先の道が整備されていると感じる人の割合	%	計画	—	40.0	—	50.0	50.0	UD市民意識調査 H23調査: 30.4%	
		実績	—	***	—	***	29.9		
② 安心して外出できる環境づくり									
誰もが使いやすい休憩所やトイレが整備されていると感じる人の割合	%	計画	—	35.0	—	50.0	50.0	UD市民意識調査 H23調査: 26.1%	
		実績	—	***	—	***	30.3		

#### ◆評価コメント

##### ① 歩行者優先の道づくり

- ▶ 市役所前交差点は、平面横断化によって車いすやベビーカー利用者等の利便性が高まったのは評価できる。他の地下道においても、平面横断化を進めることが望まれる。
- ▶ 歩行者を巻き込んだ交通事故が多いので、安全に整備された歩道をもっと増やすことが必要である。
- ▶ 郊外には幅が広く安全な歩道が少ないので、市街地だけでなく、市全体に安全な歩道等を整備していく必要がある。

##### ② 安心して外出できる環境づくり

- ▶ 車いすが利用できるトイレは増えてきたが、今後も安心して外出するために設置を増やしていく必要がある。
- ▶ 多機能トイレの整備には経費がかかるが、障がい者や高齢者、赤ちゃん連れの方には切実な問題である。また、オストメイト用トイレをもっと増やすべきである。
- ▶ まちなかに休憩施設（ベンチ）があれば、お年寄り等が外出しやすい。またベンチに屋根があると夏場や雨天時も利用しやすい。



## 基本方針（2）誰もが利用しやすい公共交通

### ◆基本施策別評価指標

基本方針	単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策								
指標								
(2)誰もが利用しやすい公共交通								
①生活に便利なバス路線等の充実								
公共交通機関の利便性の満足度	%	計画	32.3	32.7	33.2	33.7	34.2	市民アンケート
		実績	33.4	27.2	17.9	18.5	20.1	
②利用しやすい駅と駅周辺のUD化の推進								
駅のUD化改修数 (エレベーター新規設置)	駅	計画	0	3	4	4	5	5年間累計
		実績	0	3	4	5	5	

### ◆評価コメント

#### ①生活に便利なバス路線等の充実

- 利用状況や経費的な問題もあるが、高齢化や観光客の増加に対応した交通環境の整備が必要である。
- 「く・る・る」の運行は、ルートなど再考の必要がある。観光客の利用促進も視野に入れることが必要である。
- 浜松駅集中型ではなく、地域の循環を考慮して利用しやすい公共交通整備を進め、区役所へのアクセスや東西の交通網を充実することが必要である。

#### ②利用しやすい駅と駅周辺のUD化の推進

- 遠鉄曳馬、上島、助信駅の高架化によって、東西交通の円滑化と駅舎のUD化、またエレベーター設置も計画前倒しで実施できたことは評価できる。
- 駅のホームには椅子があるが、駅構内には椅子がない。待ち合いの時にちょっと座れる場所があるとよい。
- 乗降者数が多い駅だけでなく、少ない駅にもUD化を進めていかななくては、公共交通の全体的な満足度は上がらない。

## 基本方針（3）誰もが利用しやすい施設

### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策									
指標									
(3) 誰もが利用しやすい施設									
①施設等のUD化の推進									
整備優先度の高い公共建築物のUD度	点	計画	51	51	53	55	56	※計画数値(上方修正)	
		実績	51	52	54	55	58		
民間事業者に対するUD化指導件数	件/年	計画	50	50	100	100	100	※計画数値(上方修正)累計→年度別数値に変更	
		実績	111	105	124	105	67		
②案内サイン等のUD化の推進									
施設等案内サインをわかりやすいと感じる人の割合	%	計画	—	50.0	—	75.0	75.0	UD市民意識調査 H23調査:42.8%	
		実績	—	***	—	***	49.8		

### ◆評価コメント

#### ①施設等のUD化の推進

- UD化整備をした施設で、利用者の声を聞き、それを今後の整備にフィードバックするような制度が必要である。
- 公共建築物のUD化は進んでいるが、まだまだ整備が必要な古い建物も多く、時間がかかるが整備を進めることが必要である。
- 利用者（障がい者や高齢者、子育て世代等）の声を集めて、耳を傾けて整備していくことが必要である。

#### ②案内サイン等のUD化の推進

- 外国人も理解できるピクトグラムなどの案内サインを増やす必要がある。
- 施設のUD化整備に伴い、案内サインをわかりやすいと感じている人の割合は向上しているが、まだ半数にも満たない。古い施設であっても、市民の利用が多い施設は、案内サインの表示方法や位置等を見直すことも必要である。
- 利用者にとっては、サイン類を市内で統一することが望ましい。

## 基本方針（4）安全・安心に暮らせる地域

### ◆基本施策別評価指標

基本方針	単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考	
									基本施策
									指標
(4)安全・安心に暮らせる地域									
①災害に強い地域づくり									
防災ホッとメール登録者数	人	計画	19,000	23,000	25,000	27,000	29,000		
		実績	25,352	28,461	30,162	31,809	37,367		
②犯罪や交通事故のない地域づくり									
地区安全会議設立数	団体	計画	43	46	49	52	55	自主的防犯活動団体の設置数	
		実績	43	46	49	52	52		

### ◆評価コメント

#### ①災害に強い地域づくり

- 防災計画を策定し、区版避難行動計画の冊子を全戸配布したことは評価できる。今後は、配布して終わりではなく、その後の活用法や自分の地域における避難行動について、周知させる工夫が必要である。
- 防災ホッとメールの登録者が順調に増えていることは、市民に防災意識が高まっている証拠であり、良い結果である。

#### ②犯罪や交通事故のない地域づくり

- 最近、市内で凶悪事件が立て続けに発生していることから、「地域の防犯活動に対する支援」の強化が必要である。

## 基本方針（5） 人に優しいものづくり

### ◆基本施策別評価指標

基本方針		単位	区分	H24	H25	H26	H27	H28	備考
基本施策	指標								
(5)人に優しいものづくり									
①生活を便利にする身近な製品のUD化									
UD製品のアイデア展示	回/年	計画	3	3	3	3	3		
		実績	4	6	8	8	6		
②UD製品の普及									
身の回りにUD製品が増えてきたと感じる人の割合	%	計画	—	60.0	—	75.0	75.0	UD市民意識調査 H23調査:51.5%	
		実績	—	***	—	***	52.9		

### ◆評価コメント

#### ①生活を便利にする身近な製品のUD化

- UDに配慮された製品が増えてきたが、ほとんどの消費者がUDだと思って購入していない。説明を受けなければ、UDということに気づかない人が多い。UD製品展を実施することで、親子をはじめ、幅広い市民にUDを啓発できるので、各地域で実施してもらいたい。
- 市役所や区役所だけでなく、大型ショッピングセンター等の集客施設で、UD製品展を開催することも必要である。

#### ②UD製品の普及

- 「UDプラス in はままつ」は、試乗や体験もあり、UD製品の効果的なPRが出来ている。今後も継続してもらいたい。
- 特に輸送機器等の下請けノウハウを有した中小零細企業へのUD製品開発支援の強化が必要である。